

2018年(平成30年)8月14日(火曜日)

三島市長に抗議相次ぐ

駅南口再開発「中止なら私殺して」

三島市のJR三島駅南口東街区で計画される再開発事業をめくり、豊岡武士市長(75)が、市役所を訪れた事業に反対する住民らに対し「中止させるなら私を殺してからにしてください」と発言し、打ち首を待つようなポーズを取った問題が、波紋を広げている。テレビの全国放送などで取り上げられたこともあり、市に市長への抗議メールなどが多数届いている。

(佐久間博康)

豊岡市長の言葉は七月二十三日、反対派が市役所を訪れ、再開発の中止などを求める要望書を市長に提出した際に発せられた。反対派は再開を中止に追い込むと決意を



「中止させるなら私を殺してからにしてください」と話し、打ち首を待つようなポーズを取る豊岡武士市長。7月23日、三島市役所で

JR三島駅南口東街区の再開発事業 現在駐車場となっている市有地など計1.3㌔に、2025年1月ごろに商業施設とマンションなどを整備する計画。総事業費220億円で市負担は61億円。市は今月下旬、ミサワホームが代表の共同企業体などと協定を結び、事業を本格化させる方針。再開発計画の是非は12月9日告示の三島市長選の最大の争点となる見通し。3期目を目指す豊岡市長と、中止や見直しを掲げるとともに新人の県議宮沢正美さん(69)と会社役員石井真人さん(39)が立候補を表明している。

前で行われ、その場は一時騒然となった。市によると、市長の言動や再開発計画に対し今月十三日夕までにメール三十九件、手紙一通が届いた。内訳は市長への抗議が二十一件、市長への賛同・応援は三件、市の再開発事業計画に反対や懸念を表したものは十五件、再開発への賛成が三件だった。メールなどの内容は、市長の言動に「子供じみた態度だ」と感じた。「首長がとる態度ではない」などと批判したほか、再開に「反対派と話しかって進めて」などとした。「一部の反対派に負けずに進めて」という声も寄せられた。豊岡市長は七月二十七日の記者会見で「不転の決意を示したかった」と弁明した。今月十三日の本紙の取材に、自らの言動を撤回する考えはないとし「不快な思いをした人がいるかもしれないが、再開の重要性をご理解いただきたい」と答えた。